

宝の海から

白浜で出会った生きたゴンスイ玉

36

京都大学助教授 久保田 信(京都大学 瀬戸臨海実験所)

可愛い毒魚 ゴンスイ

海のナマズと言えはゴンスイである。夜行性で日本の中部以南に分布し、東南アジア、紅海、南アフリカ沿岸まで広く生息する。世界でゴンスイ科は9属約30種が知られている。わが国ではゴンスイ一種だけだが、将来2種になる可能性がある。

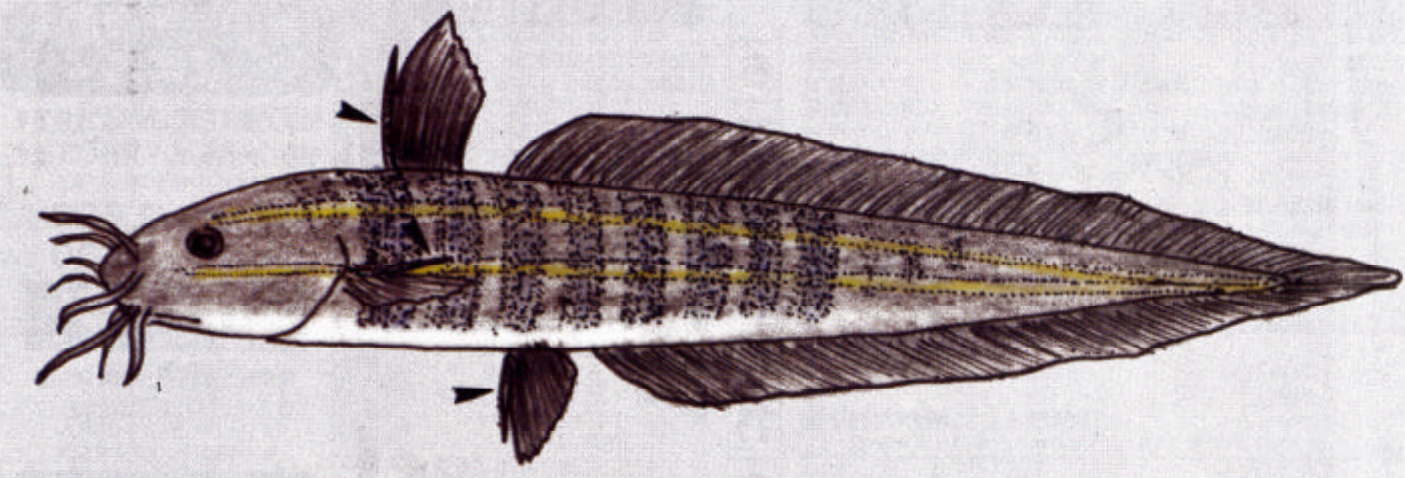
見たことはない。しかし、おびえたときなどに横まを出す可能性がある「ゴンスイの群れ、いと教えてくださった。その姿をぜひ見たい」と思っ

今年から瀬戸臨海実験

普通、黄色い縦じまの4対のヒゲがチャームポイントだが、夜になると横じまになっていくのを

所水族館は年中無休、開館時間も午後5時半までとなった。時々、消灯して真っ暗な夜の水族館観察に学生たちを連れていくが、謎のしま模様

しま模様「縦から横へ」

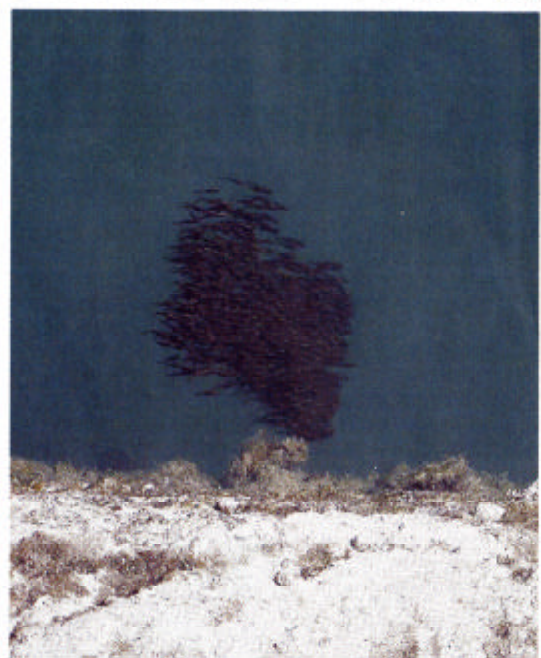


6月初旬、薄暗くなってきた北浜で、異様な光景に遭遇した。浜辺に打ち上げられるものを調べる観察を終えようとしていたところ、波打ち際で海藻のよつな一塊りの物体が打ち上がった。よつなへんを見て

夜間に横じまを現し、あたかも別種のように見える「ゴンスイ」(想像図) ▲田は毒魚



6月18日に北浜で「乱舞」していたゴンスイ玉より捕獲した1個体



瀬戸漁港に今年初めて出現したゴンスイ玉、まだ体長数センチにならない幼魚数十個体から構成される(6月18日)

この群れが船着き場のわきの岩礁の間に消え去ってゆく寸前、バケツで小さなおりの中でも社会的動物の性格が出ていた。実は、ゴンスイ玉は血縁関係のある個体の集合なのだ。同じ両親から生まれた兄弟姉妹群である。この群れを守ることが出来るのだ。瀬戸漁港にも6月18日に今年初めてのゴンスイ玉が現れたので撮影した。まだ体長数センチ足らずの生まれ間もない幼魚

の群れである。数十個体が見事に「丸」となって岸壁に沿って行ったり来たり。その形も刻一刻変わってゆくのを見ていても飽きない。彼らもやがて成長して成魚になると単独生活をするようになるのだ。

毒の成分は日本人研究者が解明した。神経性のプロトスバスマミンと溶血性のプロトリジンを含む。この毒は死んでも有効なので、岸壁などに捨てられているゴンスイにも気を付けたいといけない。堅い棘はそうりや長靴などを簡単に突き裂いてしまう。